

福井大学医学部附属病院で医療用テレメーターの双方向化等に関する公開実証試験を実施 ～『医療用テレメーターにおける生体信号伝送の双方向化等に関する調査検討会』～



看護スタッフの協力により行われた患者探索実験

平成24年12月21日(金)、福井大学医学部附属病院(福井県永平寺町)において、「医療用テレメーターにおける生体信号伝送の双方向化等に関する調査検討会(座長 井隼彰夫)」による公開実証試験が行われました。

実証試験は実際の病棟を使用して行われ、居場所が分からない患者を捜索する試験では、モニターによって患者の容態急変を察知した看護師がテレメーター端末のアラーム音を発生させ、それを基に速やかに患者の居場所を見つけ出すことができました。

トイレなど看護スタッフの目の届かないところで倒れている患者の早期発見と迅速な救命措置が行えることとなり、参加した看護スタッフからも高い評価をいただきました。

また、患者の携帯するテレメーターに受信エリアの「圏外」を表示する実験や、患者の名前等の情報をセントラルモニターから送信する実験など、通信の双方向化により、医療安全の向上に役立つことが期待される機能の検証が行われました。

今後、今回の検証結果を基に技術的検討をさらに進め、来年3月に報告書が取りまとめられる予定となっています。



圏外表示実験



携帯テレメーター実験局



病棟に設置された中継局を見る実験参加者